

伊勢志摩国立公園の伝統

日本には一年の日数より多くの祭りがあると言われますが、これは数多くの豊かな歴史的伝統を持つ伊勢志摩については紛れもない事実です。

伊勢神宮だけでも年間 1,500 以上の神事や儀式が行われています。これらは大抵神職によって執り行われますが、地域住民や参拝者が参加する行事もたくさんあります。そのひとつ、10 月に行われる初穂曳という儀式では、収穫したばかりの米を奉納します。この供物はそれぞれ曳車で外宮（豊受大神宮）へ、舟で内宮へと運ばれます。また、春と秋に行われる祭りでは、神楽（音楽に合わせて祈りを込めて舞われる儀式的な舞）を楽しむ貴重な機会が得られます。

海岸沿いでは海の神を祀る行事が行われます。7 月に開催されるしろんご祭では、海女（伝統的な女性素潜り漁師）が安全と豊漁を祈願します。海女たちは、しろんご浜に集まり、一番先に海底から雄雌両方のアワビを持ち帰ることを目指して競います。勝者は翌年の海女頭とされ、勝者のアワビは近くの白髭神社に供えられます。